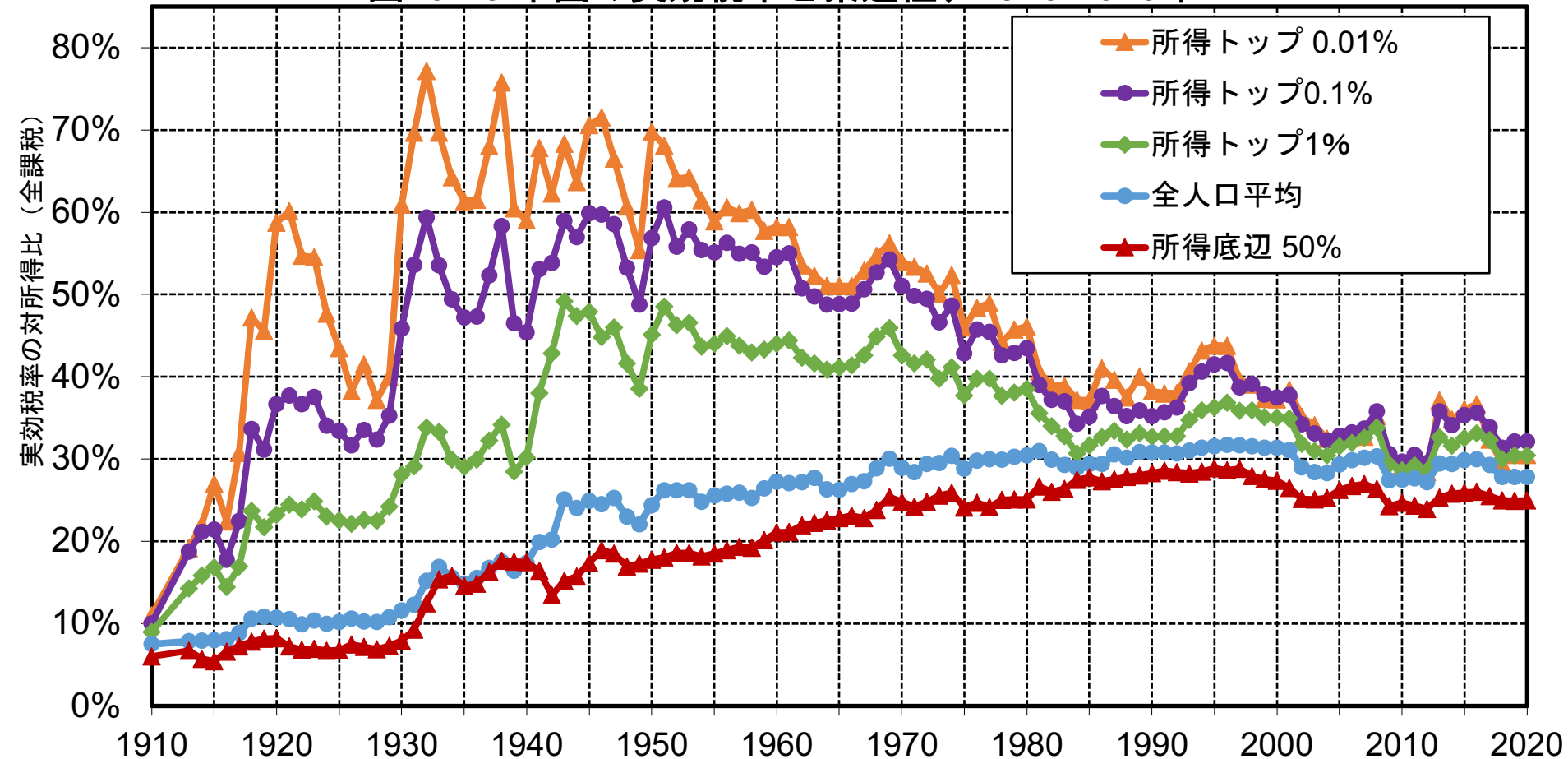


図10-13 米国の実効税率と累進性、1910-2020年



解釈: 1915年から1980年まで米国の税制は累進性が非常に高く、最高所得に対する実効税率(すべての税を合わせて、課税前所得に対する%で表したもの)は国民全体(とりわけ最貧50%)に比べてずば抜けて高かった。1980年以降、税制はそれほど累進的でなくなり、実効税率の差は限定的だ。
出所と時系列データ: piketty.pse.ens.fr/ideology 参照。